

## 宣撫班編『日本語會話讀本』成立過程の再検討

—新資料の校合に基づいて—

中村 重穂

(北海道大学国際本部グローバル教育推進センター日本語・国際教育研究部門)

nkMrs@oia.hokudai.ac.jp

## (0) 本発表の背景

- 1. 華北占領地日本語教育史研究の継続的必要性
- 2. 未確認資料の発掘(中村が入手、及び防衛省防衛研究所で確認)
- 3. 個人的事情(宣撫班研究、渡部宗助先生の願望、乗りかかった船)

## (1) 本発表の目的

- 1. 新確認資料と既存資料との校合による『日本語會話讀本』の成立過程推定
- 2. 宣撫班日本語教育研究の日本語教育史研究への寄与の可能性提示

## (2) 書誌情報

現存の『日本語會話讀本』諸本

巻本	所 蔵 先	版	編 者	略号
巻一	東京都立中央図書館実藤文庫	初版	宣撫班本部編	S
	中村 重穂	初版(?)	宣撫班本部編	N
	防衛省防衛研究所図書館	第三版(?)	大日本軍編	B
	中華人民共和国北京市档案馆(※)	推定第四版	(記載無し)	P
巻二	東京都立中央図書館実藤文庫	初版	宣撫班本部編	S
	防衛省防衛研究所図書館	改訂版	宣撫班編	B
	中村 重穂	第三版	大日本軍編	N
	中華人民共和国北京市档案馆	第四版	(記載無し)	P

(※)北京市档案馆は巻一・巻二各 3 冊所蔵。版の異同は未確認。

(註)この他に学校法人長沼スクールが 1 冊所蔵との情報あるも未確認。

## (3) 先行研究(駒込 1989、中村 2002a/b、田中 2003、中村 2004a/b、中村 2006)概観

- 1. 現代の初級文法項目の約 6 割をカバーするも配列の系統性無し
- 2. 初級文型導入+日本社会の儀礼的行動様式の理解・運用(=権力関係の構築)が目的
- 3. 巻二NでS第 28 課「訊問」が削除←満華人宣撫班採用への支障と推定→【資料 1】
- 4. 南満洲教育会教科書編輯部の仮名遣・送り仮名で(有声破擦音以外は)作成
- 5. 範型として吉原良之助『中日対訳日語會話讀本』説と南満洲教育会『速成日本語讀本』

(上)』説あり

- 6. 初期は知識層対象→児童青少年層対象→再度知識層も対象と、対象学習者が変転
- 7. 正式な教科書の扱いを得なかった流用的、且つ特異な教科書
- 8. 日本語教科書としての位置づけから視覚的プロパガンダの道具への変質

(4) 推定成立期(先行研究から)

- 1. 卷一・二S→1937(昭12)12月14日以降1938(昭13)年3月30日〔=公募宣撫官配属前〕もしくは1939(昭14)年7月9日〔=満鉄系宣撫官引揚げ完了〕までに執筆・刊行
- 2. 卷二N→1939(昭14)年9月12日以降11月3日までに改版〔=多田駿北支那方面軍司令官着任+裏表紙の図から〕→【資料2】
- 3. 卷二P→1941(昭16)年7月8日以降中華民国新民会に引き継がれて印刷・刊行〔=多田駿離任以後+裏表紙空白〕
- 4. 卷一P→第四版と推定〔=表紙題字の同一性+異字形の共通性〕

(5) 「卷一」諸本校合

- 1. Bに表紙が2枚存在→防衛省の製本ミスか?→【資料3】
- 2. S、N、Bを三者で校合し表紙～裏表紙まで全194箇所の変点あり。
  - ① S = N ≠ B …53箇所
  - ② S ≠ N = B …105箇所
  - ③ S = B ≠ N …6箇所
  - ④ S ≠ N ≠ B …30箇所
- 3. B第三版の表紙はPの表紙に一致。
- 4. B初版の表紙とPの表紙の一致は3箇所のみ。
- 5. 表紙・扉を除く「緒言」以降のS、N、Bの変点167箇所中；
  - ⑤ P判読不可の1箇所と参照不可の裏表紙以外の165箇所でB = P
  - ⑥ S ≠ N = B = Pは84箇所
  - ⑦ N ≠ S = B = Pは7箇所
- 6. 表紙以外の扉以降でS - Nの変点箇所(Nの判読不能箇所1箇所を除く)
  - ⑧ 異字形…70箇所→【資料4】
  - ⑨ 表音式の誤植…2箇所(例：カマワヌ○→カマハヌ×)
  - ⑩ (⑩以外の)誤字・誤植…12箇所(例：貸→借、今日(ケヨオ))
  - ⑪ S→Nで誤字・誤植の修正…10箇所(例：ダバコ→タバコ)
  - ⑫ 改行位置の違い・ずれ…13箇所
  - ⑬ ルビの有無…3箇所(例：「オ加減(カゲン)」→「オ加減」〔ルビ脱落〕)
  - ⑭ 分かち書きの有無…3箇所(例：駅エ オ見送りニ～→駅 エ オ見送りニ～)
  - ⑮ その他…7箇所
- 7. N - Bの変点箇所(Nの判読不能箇所1箇所を除く)
  - ⑯ 異字形…32箇所→【資料5】
  - ⑰ 表音式の誤植…6箇所(例：ソンチョオ→ソンチョウ)
  - ⑱ (⑱以外の)誤字・誤植…32箇所(例：オ湯→お湯)

- ⑱ N→Bで誤字・誤植の修正…2箇所(例：～表音式→～表音式。)
- ⑲ 改行位置の違い・ずれ…15箇所
- ⑳ ルビの有無…6箇所(例：「オ加減」→「オ加減(ゲン)」)
- ㉑ 分かち書きの有無…3箇所(例：～誰 デスカ。→～誰デスカ。)
- ㉒ その他…2箇所

(6) 「巻二」諸本校合

- 1. S、Bを校合し、その後Pと比較→表紙～裏表紙(Bを除く)で150箇所の相違あり。
  - ① 異字形…107箇所→【資料6】
  - ② 表音式の誤植…9箇所(例：ソレニワ及ビマセン。→ソレニハ及ビマセン。)
  - ③ (②以外の)誤字・誤植…7箇所(例：玉(タマ)突(ツ)キ→玉(タマ)突(ツキ)キ)
  - ④ S→Bで誤字・誤植の修正…5箇所(例：結構テスネ。→結構デスネ。)
  - ⑤ 改行位置の違い・ずれ…6箇所
  - ⑥ ルビの有無…3箇所(例：見(ミ)テ下サイ。→見(ミ)テ下(クダ)サイ。)
  - ⑦ その他…13箇所
- 2. S-Bで誤字・誤植等が同じままの箇所が13箇所
  - ⑧ 表音式仮名遣いの誤記…7箇所
  - ⑨ 有声摩擦音「ズ」を有声破擦音「ヅ」に一律変更…5箇所
  - ⑩ 漢字の誤り…1箇所
 ※「巻一」に見られた「今日(ケヨオ)」は、S、B4箇所とも見られず。
- 3. B-Pの校合結果、1箇所(「号」の旧字体異字形)を除き全てB=P。
  - ※但し、P版の印刷または複写の濃度による違いとも見えるため、現物を確認した場合には同一の可能性あり。

(7) 考察

巻一

- 1. Bは表紙の大きさのずれから第三版と推定される。
- 2. S、Nはいずれも版の記載がないため初版と考えられるが、S≠Nが135箇所⇔S=Nが55箇所という異同から、①Nは(実は)初版ではない、②初版であるが印刷者(印刷会社、植字工、活字製作者等々)が異なるという二つの可能性が推定される。
- 3. 上記2は、異字形(特に「麼」と誤字・誤植(特に「貸→借」、「今日(ケヨオ)」)から傍証され、同一初版であればこれらの誤字・誤植は考えにくい。
- 4. (上記3の誤字・誤植は中村2004では第四版のものとされたが)Nでは、B(=P)に現れる17課「お湯」の誤植が出現していないため、NはBよりも前の版であることが判る。
- 5. Nは、表音式表記の誤植が2箇所のみで崩れないこと、及び表音式表記の誤植の修正(ショウバイ→ショオバイ)が為されていることから、表音式表記が崩れているB(=P)より前の版と考えられる。
- 6. 以上から、NはSと異なる印刷者による初版と推定されるが改訂版の可能性もある。

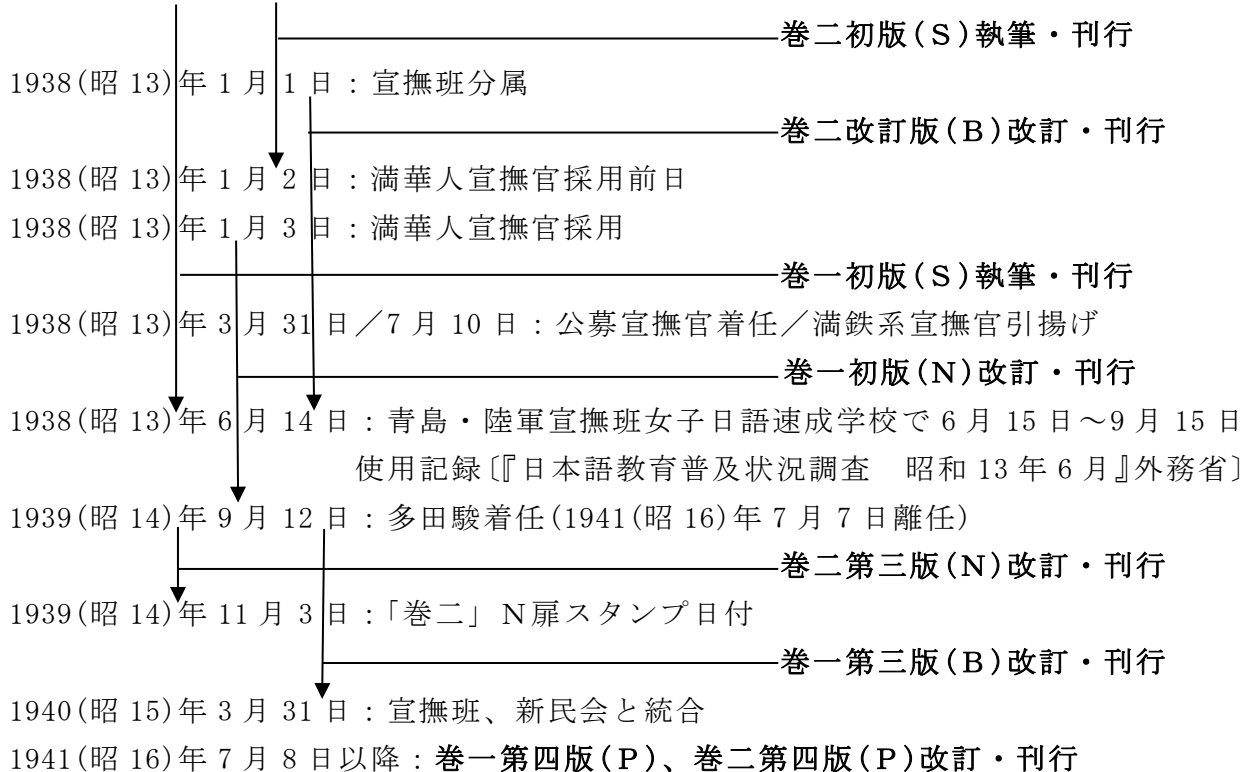
- 7. Bは、表音式表記が崩れ、17課で誤植「お湯」が出現していることから、S作成時の設計思想が理解されない状態で改訂されたことが判る。
- 8. 裏表紙に「建設東亜新秩序」の図があることから多田部隊の印刷物であることが判る。
- 9. 異字形のうち「記」が3種類混在したり、「麼」(の一部)、「熱」がSに戻ったりしていることから、版を新たに組み直して印刷されたことが考えられる。
- 10. 誤字・誤植「貸→借」、「今日(ケヨオ)」はNと同じで、部分的にNを下敷きにしたと推定される。

**卷二**

- 11. Sで「宣撫班本部編」となっていたものがBで「宣撫班編」となったのは、1938(昭13)年から宣撫班が軍宣伝版から軍特務部に転属し、現地で各特務機関に分属することになったためと考えられる。
- 12. 第28課「訊問」は、Bで既に削除されていることから、1939(昭14)年1月3日の満華人宣撫官現地採用前までに成立したと推定される。
- 13. 異字形の種類と数から、「卷一」同様Bから印刷者が変わったことが判る。
- 14. 表音式表記の崩れがこの段階から認められることから、S→Bの過程だけでなく「卷一」→「卷二」の段階でもSの設計思想が綻び始めたことが窺える。
- 15. 上記14は、誤記・誤植の修正に表音式表記7箇所(の)の修正が含まれていないことから傍証される。
- 16. 「卷一」に見られる「今日(ケヨオ)」がS, Bの4箇所とも「キヨオ」であることから、「卷一」と「卷二」の印刷者も異なっていた可能性が考えられる。

(8) 成立過程に関する(暫定的)結論

1937(昭12)年7月21日：宣撫班設立



(9) 宣撫班日本語教育研究の日本語教育史研究への寄与

-1. 華北占領地日本語教育の実相の一端の解明

→「日本語教育の非専門家集団」による日本語教育(中村 2005:79)という視点

⇔反照的に(当該時代の)「専門家」とは何かへの探究

-2. 「歴史に残る教科書」の「新内 6 条件」(新内 1997:108-109)の再検討/深化の可能性

→(a)言語政策的要因

(b)学習者のニーズへの対応

(c)多様な教師への対応

(d)新しい教授法理論の導入

(e)関連諸科学の応用

(f)教科書作成者の日本語教育観

⇔どう見てもおおよそ「6 条件」を((f)以外は?)欠いている『日本語会話読本』がなぜ華北占領地で版を重ね、記録/記憶に残ったのか?

→形式論理学的問題設定

命題:「新内 6 条件」があれば「歴史に残る」。

対偶:「歴史に残る」ことがなければ「新内 6 条件」はない。(=必要十分条件)

逆:「歴史に残る」ならば「新内 6 条件」がある—か?。

裏:「新内 6 条件」がなければ「歴史に残る」ことはない—か?。

…逆や裏の考察から日本語教科書の環境を考える視点や要因の掘り起こし/発見へ

⇒今後の課題

(完)

.....

【参考文献】

- ・外務省(1938)『日本語教育普及状況調査 昭和十三年六月』(外務省外交史料館蔵)
- ・駒込武(1989)「日中戦争期文部省と興亜院の日本語教育政策構想」『東京大学教育学部紀要』29 pp.179-188
- ・新内康子(1997)「歴史に残る教科書、残らない教科書」関正昭・平高史也編(1997)『日本語教育史』アルク pp.108-109
- ・田中寛(2003)「東亜新秩序建設」と「日本語の大陸進出」『「文明化」による植民地支配 植民地教育史研究年報』第5号 皓星社 pp.100-159
- ・中村重穂(2002a)「大日本軍宣撫班と『日本語会話読本』」『日本語教育』115号 日本語教育学会 pp.100-109
- ・中村重穂(2002b)「大日本軍宣撫班編『日本語会話読本』の執筆者をめぐる一考察」『北海道大学留学生センター紀要』第6号 pp.53-73
- ・中村重穂(2004a)「宣撫工作としての日本語教育に関する一考察」『日本語教育』120号 日本語教育学会 pp.93-102
- ・中村重穂(2004b)「宣撫班本部編『日本語会話読本』の文献学的考察」『北海道大学留学生センター紀要』第8号 pp.62-87
- ・中村重穂(2005)「華北占領地治安工作に於ける日本語教育に関する一考察」『日本語教育』127号 日本語教育学会 pp.71-80
- ・中村重穂(2006)「宣撫班本部編『日本語会話読本』の文献学的考察・その2」『北海道大学留学生センター紀要』第10号 pp.34-57-73